

リスクに折り合いをつける生き方 ―震災で気付かされた「ゼロリスク社会」幻想―

笠間市立病院 石塚恒夫

かつて日本はゼロリスク社会と呼ばれ、「水と安全はただ」とも言われていました。実際にはさまざまなリスク（被害の可能性）があっても無視（もしくは軽視）される、「リスクが見えにくい社会」であったに過ぎません。今回の津波被害や原発事故も、想定外だったとは言いきれないのです。

最近ではひとたび事件・事故が発生すると、扇情的な過剰報道でリスクがクローズアップされます。ひとたびリスクが認識されると、それをゼロにするまで排除します。高度流通社会で他の地域から代替品が手に入りやすいことも手伝い、いわゆる「風評被害」が発生します。茨城でも99年東海村JCO臨界事故で、実際には放射性物質汚染のなかった農産物に被害が出ました。

現在問題になっている福島第一原発事故後、低線量放射線被曝の健康影響も、笠間市ではほぼないと言えませんがゼロとは言えません（科学的にゼロと証明することが困難）。生活基盤のある土地を捨てられません、

校庭の土を削るとか給食食材を考慮して欲しいという要望があるのもわかります。しかしリスクを減らそうとすれば、実際の被害が生じます。経費や地域社会に与える影響を考えると、必ずしも得策とは言えません。福島県民に被曝量も含めた調査が行われますので、どれだけの影響がありそうか参考にしてもいいでしょう。高被曝量の福島県民に30年以上に及ぶ健康調査が予定されていますが、高被曝群だけでなく低被曝群も含むべきです。比較して本当に発癌が増えるのか疫学データを出すことが、日本の義務と考えます。

一部の人々に大きな健康被害をもたらす公害がなくなった代わりに、健康被害を起こすリスクを多くの人々が心配する環境問題が増加しています。無視するのでも過剰反応するのでもなく、リスクは「前提としてある」と認識すべきです。リスクを正當に評価しそれを減らす行為で発生する実害も考慮し、折り合いをつけて生きることが求められているのです。

笠間のがんばる企業紹介③④

市内で活躍する企業を支援するために結成された「笠間市がんばる企業応援連絡会」。このコーナーでは、連絡会に加入している企業の皆さんを紹介します。

株式会社ムラカミシード

今回は、大田町で当初は茨城園芸株式会社として昭和51年に創業し現在まで営業を続けられている株式会社ムラカミシードを紹介いたします。平成17年に代表取締役社長に就任した村上忠義社長にお話を伺いました。

―業務内容を教えてください。―
当社は種子や球根をはじめとした育種や研究開発、そして販売を展開しています。水戸市鯉淵町に25,000㎡の研究農場を持ち研究開発に取り組み、同じ場所に園芸専門のアンテナショップ「花みどり」を営業しています。直売店と研究施設が隣接していることから、消費者のニーズが商品づくりにも反映されています。開発業務としてはパンジーなどの品種改良を行います。独自の商品を開発しています。品種改良には多大な時間を要し、販売に至るまでには8年ほどを費やしています。

―取り組みの結果と今後の事業展開についてお聞かせください。―



販売所「花みどり」

地道な研究開発に取り組んできた結果として、パンジー・ピオラを品種改良した「うみももか」が平成22年に農林水産大臣より、そして今年の5月にはハポタンを品種改良した「小雪」が農林水産省より表彰を受けました。今後は国内外に対して品種力で競争していけるよう、さらに魅力のある自社オリジナルの商品を開発し勝負していきたいと思っております。



ムラカミシード本社

―会社の理念は？―

「花のある暮らしを通して、世界の人々の幸せに貢献すること」を創業以来の理念としており、世界中のお客様に親しまれ、人々の暮らしや社会そして経済に貢献できるよう努力しております。専門知識をもつ社員も加わり、販売や品種改良にまい進しお客様に喜ばれる商品づくりに取り組んでまいります。

「株式会社ムラカミシード」

所在地：笠間市大田町34-1

従業員数：53人（パート含む）

※文責▽笠間市役所企業誘致推進室（内線214）